

～住民と共に作り上げるボランティアセンターを目指します～

前述したように、災害はいつ私たちの身に起きてもおかしくない状況です。当然、日頃の防災や減災の備えが最も重要ですが、起こってしまった後に対する備えも同じくらい重要です。

もし、美郷町で大規模災害が発生した時、万が一あなたの自宅が被災した時、あなたやあなたの家族を一番に支えてくれるのは「災害ボランティアセンター」が派遣するボランティアの力かもしれません。

そのセンターを運営するには、社協職員のみならず、地元で育ち、地元を良く知り、地元を愛してやまない地域住民の皆さまの思いと力が必要です。

美郷町社協では、今後も地域の防災や減災、災害ボランティアセンター運営に関わる事業を実施してまいりますので、共に災害をも乗り越えられる地域を作っていきましょう。

★被災地へボランティアに行きたいと考えている方へ

平成30年7月豪雨被災地(福岡県嘉麻市)でのボランティア活動報告

8月7日、町内の有志7名(民間1名・行政2名・社協4名)が集い、福岡県嘉麻市での災害ボランティアに参加してきました。

社協では、被災地でボランティア活動をしたいと考えるみなさんと現地との調整のお手伝いも可能です。お気軽に近くの社協へご相談ください。



平成30年7月豪雨災害義援金

募集期間延長(平成30年12月28日まで)

【募金箱設置場所】役場、社協、病院、コンビニ、商店など



美郷の地域福祉を支える

～美郷町高齢者クラブ連合会のみなさん～

社協が紹介したい
地域の人 vol.14

8月に行われた「宮崎県老人クラブ大会」にて表彰されました。

【宮崎県知事表彰 優良老人クラブ会員賞】

黒田益國さん(北郷地区分会:入下寿会)

入下寿会入会以降17年に渡り、入下寿会会長、北高ク連会長、町高ク連副会長等を歴任。クラブや連合会の運営に尽力されてきました。地元の入下寿会では、「町の現状」「介護保険」「認知症」に関する勉強会を企画するなど、会員目線の企画力と行動力にて手腕を発揮されてきました。



【宮崎県老人クラブ連合会会長表彰 永年勤続功労者賞】

田村宅男さん(南郷地区分会:鶴亀会)

みなさんの意見を積極的に聞き入れ、円滑にクラブの運営をしています。現在も、町高連副会長として、会員のリーダー的存在です。



松浦嘉子さん(西郷地区分会:坂本全寿会)

笑顔がとっても優しく面倒見のいい松浦さんは、女性部会の活動再建にリーダーシップを発揮されました。現在も、温かく活動をサポートしておられます。



若藤正春さん(西郷地区分会:上野原全寿会)

温和な人柄と責任感で、会長を影に陽向に支えて来られた縁の下の力持ち副会長です。

特集 災害時に重要な役割を担う 災害ボランティアセンター

頻発する大規模災害。昨年の九州北部豪雨災害をはじめ、先日北海道で発生した大地震など、この2年間で5件の大規模災害が発生しています。そのほとんどの地域では、被害に遭われた方の生活再建の手助けをする「災害ボランティアセンター」が開設され、ボランティアによる土砂の撤去作業やメンタルケア等を行っています。昨今では、有名人等の参加によりメディアや新聞等で取り上げられるようになったことで、みなさんの認知度も上がってきたように感じます。

今回は、先月、南郷地区にて実施した訓練(8/26実施)の様子を踏まえ、「災害ボランティアセンター」の概要について解説していききたいと思います。

『センター開設までの流れ(例)』

- ① 災害発生
- ② 自衛隊、消防、警察等による人命救助
- ③ 行政による避難所設置、生活物資の支給等
- ④ 行政による被害状況の確認
- ⑤ 行政から社協に対する「災害ボランティアセンター」設置の要請
※被災世帯(危険区域を除く)の早期的な生活復旧を目的とする。
- ⑥ 社協による「災害ボランティアセンター」設置の決定、開設準備
- ⑦ 被災状況の把握、現地確認、情報収集(同時にセンター設置の周知=ニーズ把握)
- ⑧ 支援ボランティア募集の周知
開所日時の決定、周知
- ⑨ 稼働開始(※災害発生時からおよそ3日目。災害規模によって差異があります。)

『センターの役割と流れ』



ボランティア受付班
来所するボランティアの受付登録を行います。



オリエンテーション班
ボランティア活動に関する注意点等の説明を行います。



マッチング班
行き先の作業内容と人数を説明し、活動できる方に手を上げてもらい派遣調整を行います。



ニーズ受付
被災者からの活動内容を受け付け、現地確認を行って、マッチング班に活動内容をつなぎます。
※訓練では、仮の想定内容に基づいて、聞き取りの訓練を行いました。



資材送り出し班
活動に必要な資材を受取り、活動先へ出発します。

～訓練を重ねるごとに増えてきた課題と成果～

今回の訓練は、豪雨、土砂崩れによる家屋損壊・浸水被害を想定して実施。社協職員のほか、町議や民生委員、地区役員、それに一般の方(総数63名)も参加していただき、全員で一連の流れを確認することができました。

課題となったのは、一連の動線の確保や、ニーズに対する適切なマッチング業務でした。今後も協議検討を重ね、有事の際に被災者やボランティアの方に寄り添えるセンター運営ができるようしっかりと備えていく必要があります。

『参加者の声』※抜粋

「全体の流れを掴むことができたので良かった」

「大事な訓練だと痛感。今後も参加したい」

